

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 慶應義塾大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(1)))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainabilityを考慮して解決できる専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

## 【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に専門教育とアプローチの実践力を学部からテーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 共通カリキュラム(EBAプログラム)の参画大学内における展開

H26年度までに参画大学間で骨格について合意形成された共通カリキュラムを実行するため、慶應義塾大学の設置科目の一部がEBAプログラムに対応した。これにより、EBAのプログラムサティフィケート取得に必要な科目群は、コンソーシアム参加大学が質を保証する正規科目となった。e-科目等履修生制度と組み合わせることにより、単位取得を伴う形で、パートナー大学の学生も授業やフィールドワークに参加可能となっており、本学における体制は完成されつつある。他の参画大学においても同様の対応の検討が始まっている。

### ○ EBA e-portfolio

EBAプログラムでは、サティフィケートの取得要件を満たした学生に電子的なサティフィケートを発行する。

学生はインターネット上でいつでも自身の学習履歴を参照できるようになり、また、学生のサティフィケート取得状況が可視化されることで、パートナー大学のコーディネーターも各大学からのEBAへの参加学生がどのような学習をしているかを把握できるようになった。こうした情報を基に、月例のコーディネーター会議においてプログラムの方向性について議論をおこなっている。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ ASEAN地域における多様な派遣プログラム

本年度は、全てのパートナー大学がそれぞれの専門性を活かしたフィールドワークを企画し実施した。各フィールドワークにおいて、インフォグラフィクスやストーリーテリングなどのスキルワークショップを提供しEBAのフィールドワークとしての一貫性を担保している。

### ○ 日本における受入プログラム

これまで実施してきたフィールドワークに追加して、新たにビジネスフィールドワークと呼ばれる企業とのコラボレーションにより、慶應大学のキャンパスでの学習と企業での実習の(インターンシップ)の要素を併せ持つフィールドワークを実施するなど、プログラムの拡充を図っている。



Certificates - Course List

Category	Course Name	Schedule	Unit	Faculty	Certificate
CO	CO-Writing(2024)	2024-05-05 2024-05-06	200	Keio Chiba	20
FE	FE-Writing(2024)	2024-07-14 2024-07-15	400	Keio Chiba	20
FE	FE-Writing(2024)	2024-07-27 2024-07-28	400	Keio Chiba	20
CO	CO-Writing(2024)	2024-08-14 2024-08-15	400	Keio Chiba	20
CO	CO-Writing(2024)	2024-08-28 2024-08-29	400	Keio Chiba	20
FE	FE-Writing(2024)	2024-09-12 2024-09-13	400	Keio Chiba	20
FE	FE-Writing(2024)	2024-09-26 2024-09-27	400	Keio Chiba	20
FE	FE-Writing(2024)	2024-10-10 2024-10-11	400	Keio Chiba	20

〈EBA e-portfolioの画面イメージ〉



〈ビジネスフィールドワークの様子〉

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

H27年度は、当初予定を上回る延べ67名の日本人学生をパートナー大学が企画したフィールドワークへ参加させることができた。また、一度きりの参加ではなく、複数回フィールドワークに参加しEBAプログラムサティフィケートに向けた継続的な参加者が増加している。また24名の学生が、日本国内で実施したFWに参加し海外学生と交流した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

H27年度は、当初予定を上回る延べ77名が、国内で行われたフィールドワークやインターンシップに参加した。各大学においてプログラムの認知度が上がっており、また過去の参加者からの紹介などで、プログラム内容を正しく理解した参加者が増えたことにより、スムーズな運営が行われている。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	4	67	70
学生の受入	4	19	42	77	65

注)H24-H27は実績、H28は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ e-科目等履修生制度の利用

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスのe-科目等履修生制度を利用することで、本学における留学生の科目履修を可能とし、H27年度は43名の実績であった。

### ○ 学内説明会の拡充

パートナー大学と合同で英語でおこなうオープンセミナーや英語のWebサイトだけでなく、学内におけるプログラムの認知度向上のためのEBA説明会の実施やメーリングリストでの情報提供をおこなっている。また、H28年度からはASEAN地域に関連する語学授業履修者への説明会の開催もおこなっている。その結果、H27年度には日本人学生の派遣数の増加や、フィールドワークだけでなくEBAプログラムサティフィケートにむけた履修を行う学生が増加している。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

### ○ ソーシャルメディアを通じた情報発信

オフィシャルWebページ(<http://www.eba-consortium.asia/>)だけでなく、Facebookページ(<https://www.facebook.com/EBAConsortium>)を通じた情報発信、またソーシャルメディア上で過去の参加者による情報の拡散により、各パートナー大学における情報共有が進んでいる。